

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775600519		
法人名	有限会社 エフエフ産業		
事業所名	グループホーム さくら荘		
所在地	泉南市新家3566-4 (1階)		
自己評価作成日	平成26年6月20日	評価結果市町村受理日	平成26年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年7月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この辺りは、旧家も多く自然環境がいっぱいの田園や野原があり、季節感を肌で感じて頂けます。暖かい日は、毎日職員が同行し、近くのお地藏さんまで、散歩に出かけたり村なかをくるとまわったりのんびりと過ごして頂いています。地域の住民さんたちも優しく洗濯物が濡れていたりすると、声をかけて下さったりで助けて頂いております。また、提携しております医療機関は、24時間何かあったら必ず見て頂けるということで、対応してくれていますので、入居者様も安心して生活されておられます。また、2階建てではありますが、2階のベランダは、裏の道路に面しておりますので、階段を使用することなく、外出できます。4月、金網一面に咲く藤の花は、とても綺麗です。時々、庭にいたちが遊びに来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当「グループホームさくら荘」は、平成15年4月1日会社の社員寮を転用して開設され、すぐ横の別棟に多目的に利用できる和室と広間や大浴場、職員休憩室がある。月1回地域住民に回覧板を回し歌体操を開催し、地域に根付く施設を目指している。管理者は事業所での実践を踏まえ地域の会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努め、市政だよりや新聞で取り上げられている。家族に毎月介護経過報告書を送り、又家族交流食事会後の家族会では、職員は席を外して自由に発言して頂くことで、要望が出やすい場作りを考えている。配送された食材をフロア別の台所で調理し、職員も同席した和やかな食事風景がある。利用者は周辺道路の散歩や前庭での外気浴など、日常的に外に出て楽しむ我が家として、安心の暮らしがある。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日欠かさず、業務に入る前の朝礼時には、意識づけができるように、職員そろって理念を唱和しています。そして、常に入居者様に対する「思い」を職員間で、共有できるように、ミニカンファレンスをしながら、ケアを行って居ます。	GH2ヶ所共有の理念「①尊厳のある心豊かで安らかな生活をおくれる環境づくりを提供します②本人に寄り添いその思いや希望を受け止め利用者本位の支援を行います③地域社会とのつながりの中で自分らしく暮らして頂くことをサポートします。」がある。	職員全員が理念の中身を知り、理解して日々の実践の中で活かせる「さくら荘」だけの独自の理念をつくることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	必要に応じて、ご近所の花屋、喫茶店に出かけます。月1回地区の回覧板に「歌体操に来て、終了後お茶しませんか？」と書いて回して頂いております。	管理者は事業所での実践内容を踏まえ地域の会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。「市政だより」に“地域の皆様に支えられて”と題した管理者の文章が掲載された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣地にあるお地蔵様の毎日の水替え、ときどきの雑草の除去など、ずっと続けております。入居者様と一緒に草花を見分けながら、頑張っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、いろいろな報告、情報交換を行い、日々の悩みなどを相談しています。会議には、区長や民生委員の方も出席して頂いておりますので、地域との交流ということで色々ご協力して頂いております。	開催日を偶数月の第2火曜日と決めて年6回開催。市職員と地域包括支援センター、その他のメンバーに不足はなく、活発な意見交換をして業務の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	泉南市では、各事業所管理者が、認知症コーディネーターということで、市町村の担当者に関わる機会が多くあります。事業所の相談事などいろいろ相談に乗って頂いております。	泉南市では、「安心して徘徊できる市」を標榜して認知症サポーターを10年前から養成している。「地域住民が優しくなった変化を実感している」と、管理者の感想が新聞に取り上げられた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行って居ませんが、門扉は施錠しております。門扉の外は、交通量の多い車道になっておりますので、大変危険です。家族様にも、充分ご理解して頂いております。	エレベーターがないため、2階への階段上下に安全柵を取り付けている。1階だけの移動、2階だけの移動は自由で閉塞感はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待については、もちろん言葉の虐待、拘束についても外部の研修、および、荘内の勉強会でも勉強しています。また、日頃より、職員間でも、注意合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者様の中には成年後見制度を利用されておられる方はいらっしゃいません。でも泉南市では、キャラバンメイトの中に、司法書士の方がおられ、話す機会があり、成年後見制度の事を、身近に学ぶことに繋がっています。もちろん研修にも参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約をする場合、利用者やかぞくの不安をしっかりと聞いたうえで、十分に理解して頂くまで、きちんと説明し、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来荘された折には、現状報告と共に、家族様の意見などもお伺いしています。また、家族交流会(年2回)の後の、家族会での話の内容などについても、代表者の方から、問題点などについて伺っている。	月1回利用者別担当者が介護経過報告書を送り家族の来訪時に意見を聞いている。家族交流食事会後の家族会は、職員は席をはずして自由に発言して頂き要点の報告を貰っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に、各階リーダーや計画作成担当者、管理者が職員の不満、意見など聞くようにしている。その中で、重要と思われることについては、管理者会議の話し合いに繋げている。	全体会議や事故防止委員会、感染予防委員会などを開催して、個人面談も随時行っている。月1回、法人の全事業所管理者会議で運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の研修内容について把握し、スキルアップにつながる様助言している。また、勤務状況の把握をし、有給休暇の活用を促し、リフレッシュできるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を積極的に促し、費用面での支援も行っている。研修後は、内部研修にて、受講内容や、知識を伝達するようにし、職員全体で、研修を活かすように常に向上心をもって技術、知識の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型意見交換会で、各事業所が集まり、お互いの悩みの相談、また、泉南市の行事に向けた取り組みなど、事業所間での交流を通じてサービスの向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に今までの習慣や、本人様の思い、また、今後の希望要望について充分に伺うようにしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの経緯や、希望要望を伺い、家族様の思いを受け止めるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とかぞくさまの話をよく伺い、ニーズの把握に努めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般についてご本人の意思確認、相談の上、行えるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来荘時だけでなく、日頃のご様子をお伝えし、信頼関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや買い物などを通じ馴染みの店や、場所に行けるように支援をしています。また、家族様に許可頂いている知り合いの方には、遠慮なく面談して頂いています。	以前に利用していた理容店や美容室に送迎している。以前住んでいた家の近所へ、車で出かける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者と協調しあえるようレクリエーションを行ったり、共同作業を通じて、利用者間の交流が図れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されても、入院中の方に対しては、面会に行ったり、その後の様子を伺わせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時アセスメント、フェイスシートを作製し、本人様の話をよく聞くように努めている。言葉の裏にある思いや意向をくみ取り、希望を職員全員で、共有し、普段の会話や態度から、察するように努めている。	利用者と信頼関係をつくり、日頃の関わりの中で思いや意向を聞いて介護記録を参考にし、家族と相談しながら利用者の意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様来荘時などに、近況をお伝えするとともに、以前の暮らしについて伺わせていただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望や、体調を観察し生活リズムに合うように休息や、家事参加をして頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスやモニタリングを行い、ケアの方向性について話し合っている。また状況変化や、問題提起があれば、都度カンファレンスを開催し介護計画の進捗状況の確認、変更の必要性の検討も行って居ます。	事業所独自のケアプラン確認書で毎月モニタリングをして、短期は3ヶ月、長期は6ヶ月で見直しをしている。利用者の状態の変化に応じて家族と話し合い、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活状況、特記事項など記録に記載し、個人ファイルにして有ります。個人ファイルは、職員が、常時目を通し、情報を共有するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、通院などの必要性にかられた外出支援だけでなく、外食に行く、コンサート等、楽しむための、支援を行って居ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌体操、(1回/月)のボランティアの訪問や、地区の老人会との交流を行って居ます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望を大切に受診表を活用することで、正確にかかりつけ医と連携を取りながら、訪問診療など適切な医療を受けられるように支援している。	利用者と家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医として受診の支援、眼科は家族同行の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、毎日のケアの中でとらえた入居者さまの変化や気づきなど、看護師や管理者に報告あり、看護師の判断の下、適切な受診や処置に結び付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も病院関係者との連携を密にし、情報収集をし、早期退院に向けた、体制を整える。退院後も、本人様、家族様の不安のないよう事業所としての体制を説明する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様の意思、意見を尊重した事項を、家族様と確認し、個人カルテ表紙に記入することで、職員間の情報の共有につなげ、事業所として出来る事を確認し、かかりつけ医との連携、地域の関係者とともに、支援に取り組んでいる。	「重度化及び看取りに関する指針」を作成して充分説明し、利用者・家族と方針を共有して同意を得ている。身体の状態の変化に応じて医師の指示により関係者と話し合い、迅速な支援をするようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会などにより応急手当、初期対応について学習、シミュレーションを行って居る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練を行って居る。1回は、夜間時の火災ということで、行って居る。ご近所の住民とは、口頭で「協力しあいましょう」と約束できている。	防災マニュアルを整備し、年2回、消防避難訓練を実施している。水、食糧等の備蓄をしている。消防避難訓練に近隣住民の参加が得られていない。	事業所だけで避難訓練を繰り返し実施して避難方法の熟知を図り、近隣住民に避難した利用者の見守りの協力を得る取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の価値観や生活歴を大切にし、個人にふさわしい言葉かけを行って居ます。トイレなどの失敗時も個人のプライドをキズつけないように誘導し、支援介助を行って居ます。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがないように、会議や研修を重ね、配慮ある言葉かけや介助に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の要望が引き出せるようなムード作り、個人の情報収集に努め、出来るだけ本人に、選択してもらえるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の意思を大切に、出来る限り、個々のペースが保てるように努めています。その中で、共同生活への調和を図りながら、日々、楽しく過ごして頂けるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容店に定期的に来荘頂き、利用者の希望を聞き、その都度対応しています。また、ご家族様の方と馴染の美容院へ行かれる方もおられます。服装などもご本人様に選んで頂くように見守りなどの支援を心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入献立は、給食会社を利用しているが、週に1度は、利用者の希望を聞き職員と一緒に買い物等を行って居ます。また、日常的に下ごしらえ等出来るだけ手伝って頂き、見守り支援など行って居ます。	給食事業者から配送された食材でフロア別の台所で職員が調理している。職員も同席して食事をしている。月1回の外食日や利用者の希望による献立で買物に行く。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた摂取量を把握し、記録票を作成しています。摂取量が少ない方には、色々な工夫をして支援しています。特に水分量は、一日に何度か記録票を確認し、確保できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝有の口腔ケアは、ほぼ行って頂いております。入れ歯の方は、夜間消毒させて頂いております。あと、舌を洗ってもらうなど、利用者の気持ちを損なわないように支援しています。また、定期的な、歯科往診も来て頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ここの排泄ペース、サインを見出し、失禁前にトイレの声掛けを行うようにしている。	個人別のバイタルチェック表で、排泄習慣を把握し事前のトイレ誘導により、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、状態に合わせた対応を行って居る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、週3回の入浴ですが、利用者様の希望があれば、すぐ入浴できるようにしている。	浴槽は一人で入っても沈まない大きさと随所に手すりがあり職員が一人で介助出来るよう工夫されている。原則週3回午前中の中の入浴としているが、臨機応変に希望に添えるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にレクリエーション・散歩などで、刺激を持って、楽しく過ごしていただき、夜間良眠して頂くようにしている。希望があれば、昼寝を30分～1時間程度される方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下薬の用法、用量についての理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や楽しみごとに合わせた日々の生活の中に、家事仕事、花鑑賞作品作りなどを取り入れ、楽しく過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、常態化されており、利用者様の希望があれば、買い物、ドライブなど積極的な、外出を支援している。	周辺道路の散歩や前庭での外気浴など、日常的に外に出るようにしている。車で泉佐野漁港や貝塚市の明治牛乳ヨーグルト館へ遠出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より、お小遣いをお預かりし、利用者様一人一人個別に管理している。買い物に出かけるときは、必ず職員が同行し、利用者様にとって、本当に必要な物かを判断し、買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より、電話などの要望があった場合は、自由にやり取りができるように支援している。もし、利用者様に電話などがあった場合は、確認を徹底するなど、安全面も配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に合った飾りを一緒に作って、頂いたり、歌を合唱する際は、四季折々の歌を歌って頂くなど、季節を感じて頂けるように工夫している。	高い天井の玄関フロアは明るく、七夕飾りや花が生けられている。廊下の壁には行事の写真や利用者の習字の作品を展示している。リビングにはソファとテレビがあり寛げる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が一人になりたい時などは、共有スペースと居室をいつでも自由に行き来できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面を一番に可能な限り、利用者様の希望を取り入れた居室づくりをしている。また、鍵付きのドアを利用するなど、利用者さまのプライバシーにも配慮している。	居室入口には利用者の顔写真入りの名札があり、利用者は使い慣れた家具を持ち込み、写真や小物を飾り居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には、自身の部屋だとわかるように大きな文字の表札を揚げたり、飾り付け等を行って居る。また居室からトイレまで、矢印とマークでわかるようにしている。		